

年 頭 所 感

日 時 平成22年1月4日（月）午前9時

職員の皆さん，新年明けましておめでとうございます。

皆様方には，健やかに，良きお正月を迎えられましたことと，心よりお慶び申し上げます。元旦の朝は，相当寒くなりましたが，元旦は初めてという月食が見られ，何となく不思議な感じで新しい年が始まりました。お正月三が日は，幸い天候にも恵まれ，皆さんも御家族とともにゆっくりとお過ごしいただけたのではないかと考えております。

それでは，平成22年—2010年仕事始めに当たりまして，年頭のごあいさつを申し上げます。

平成22年—2010年は，本市が1890年に，全国で40番目の市として市制を施行してから，120周年の節目を迎える記念の年でありまして，いわば2度目の還暦を迎え，市政運営でも暦と同様に今一度原点に戻って，再スタートの気持ちで臨みたいと思っています。そして，改めて本市のこれまでの歩みを振り返り，現在の礎を築いていただいた先人の業績に感謝するとともに，風光明媚な自然と利便性の高い都市機能を備えた本市を，更に発展させて将来に引き継ぎ，すべての市民が暮らすことに誇りの持てるまちとして発展させていかなければならないとの決意を新たにしております。

取り分け，今年は，二つの大きな国際イベントが開催される予定になっております。サンポート周辺と，女木島や男木島，大島，直島，豊島，小豆島，また岡山の犬島を加えた瀬戸内海の七つの島々を舞台とした，現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭2010」が，7月19日海の日から約100日間開催をされます。また，2回目となる国際的な音楽コンクール「第2回高松国際ピアノコンクール」が本市で開催され，日本人14人と外国人26人の新進気鋭のピアニストが集まり，コンクールを繰り広げる予定でございます。これら二つの国際色豊かな催しが相次いで開催されることから，「瀬戸の都・高松」の魅力を世界に向けて発信する絶好の機会であると考えております。これらの催しには，国内外を問わず大勢の方が訪れることが予想されますことから，是非とも成功に導き，交流人口の拡大や，地域の活性化につなげてまいりたいと存じております。

さらに，本市では，この記念すべき年を機に，「瀬戸の都・高松」をイメージしたロゴ

マークを制作し、市制120周年記念事業のPRや、今後の各種イベント等にも使用するなど、本市の魅力を内外に広く発信していくこととしておりまして、職員の皆様方も、一人一人が市の広報パーソンであることの意識を持ち、このロゴマークの活用と、様々な機会を捉えた、本市のアピールに努めていただきたいと存じます。

さて、昨年を振り返ってみますと、衆議院議員総選挙において、歴史的な政権交代が起こり、民主党を中心とした新政権が誕生しております。新政権の方向性は十分に明確になっておりませんが、明治維新以来続いてきた中央集権体制から、地域主権国家への抜本的な転換が図られ、地方分権改革が加速されようという方向性は間違いのないものと存じます。政策の選択基準も「コンクリートから人へ」などのスローガンの下、大きく転換が図られようとしています。まさに、人に対する行政サービスの多くは、我々基礎自治体が担っているところでありまして、教育や福祉を中心とした人に対する投資は益々重要性を増し、地域主権への転換と相俟って、これまで以上に、我々の役割は重要となり、責任も重くなることと存じます。

このような状況下において、本市では、平成20年度からスタートさせた第5次高松市総合計画において、人口減少や少子・超高齢社会に対応し、市民生活を第一とした真の豊かさを実感できる、ソフト戦略を重視する方向へと既に舵を切っているところでございまして、第1期まちづくり戦略計画をここ2年間着実に推進してまいったところでございます。

そして、現在、来年度からの3年間を計画期間とする第2期まちづくり戦略計画を策定している状況でございます。

また、昨年12月市議会におきまして、全会一致で可決をいただきました「高松市自治基本条例」は、本市の自治の基本理念や基本原則などを定めたもので、この条例を市制施行120周年の記念日となります、来る2月15日に施行したいと思っております。

この条例は、美しいまちづくり条例とともに、本市では初めて日本国憲法のような前文を持った条例になっております。そして、「分権型社会にふさわしい市民が主役のまちづくり」を実現するため、市政運営の基本原則を「情報共有」、「参画」、「協働」の3点に定め、地域コミュニティ協議会やNPOを協働の重要なパートナーとして位置付け、多様な主体が地域社会を支える「新たな公共」という考え方の下、住民自治の更なる充実を図り、地域自らの自己決定と自己責任を尊重したまちづくりを推進することとしております。

私は、地域振興において心すべき言葉として、論語の「近き者説（喜）べば、遠き者来る」という言葉をよく引きあいに出します。孔子が政治の要諦は何か、と聞かれた時に応えた言葉で、「その地域に住んでいる近い人たちが喜んで慕われるような政治を行えば、自然とその評判を聞いて他の地方から人が集まってくる。そんな政治が最も望ましい。」という意味でございます。多くの市民の皆さんが高松市に住んで良かった、良い町だと誇りに思えることがまずは大事だ、ということだと思います。つまり、一番大事にすべきは、市民の満足度である、ということでございます。

本年は、新政権による地域主権改革が更に進められる年であり、自治基本条例に基づく高松市の自治運営およびまちづくりがスタートする年でもあります。市制施行120周年という記念すべき年の年頭に当たって、私自身、気持ちを新たに、高松市のまちづくりと更なる発展のために、そして、市民の満足度の向上のために誠心誠意、全力を挙げて取り組んでまいり所存でございますので、皆様方にも、なお一層の御尽力をお願い申しあげる次第でございます。

終わりになりますが、今年一年が、高松市にとりまして、また、職員皆様方にとりまして、御家族ともども、健やかで実り多き年となりますことを心から祈念申しあげまして、私の年頭のあいさつといたします。

本年も、どうぞよろしくお願いいたします。